

【確実な未来】

50年後も、人口減少が続き、加速。
現状のままでは、「人口急減・
超高齢社会」の到来

人口 (2013年)12,730万人 → (2060年)8,674万人

減少幅	2008~2013年	▲16万人/年
	2010年代後半~2020年代初頭	▲50~60万人/年
	2040年代初頭	▲100万人/年

高齢化率 (2013年)25% → (2060年)40%

【現状のまま何もしない場合の未来像】

- ・プラス成長を続けることは困難になり、**マイナス成長が定着**
- ・「**人口オーナス**」と「**縮小スパイラル**」の双方が作用し、国民生活低下のおそれ
- ・女性、高齢者、若者が活躍できない労働市場の**二極化**、**格差の固定化・再生産**
- ・地方で**4分の1以上**の自治体が**消滅可能性**、東京では超高齢化
- ・医療・介護費の増加により**財政破たんリスク**の高まり

危機意識
の共有

未来を
変える
時間軸

成長・発展(早期に)
アベノミクスを機に長期の
発展経路へ

人口・地域(2020年目途)
人口減少が加速する前に
トレンドを変える

2020年のその先へ
持続的・安定的に成長・
発展する経済社会

【未来への選択】

- ・制度、政策や人々の意識が速やかに変われば、「人口急減・超高齢社会」への流れは変えられる
- ・若い世代や次の世代が豊かさを得て、結婚し、子どもを産み育てることができるよう集中して改革・変革

①人口

50年後に1億人程度
(この場合、その一世代後
には微増に転じる)

- ・国民の希望どおり子
どもを産み育てられる
環境により、1億人程
度の人口を保持
- ・資源配分を高齢者か
ら子どもへシフト、出
産・子育て支援を倍増。
費用は現世代で負担
- ・子どものための政策
推進

②成長・発展

経済を世界に開き、
「**創意工夫による新た
な価値の創造**」により、
成長し続ける

- ・イノベーションが生産
性向上の切り札
- ・産業・企業の「**新陳代
謝・若返り**」(ダイナミズム)
- ・オープンな国づくりと、
外国人材の戦略的受け入れ
- ・債務残高対GDP比引
下げ等の明確な目標

③人の活躍

年齢、性別に関わら
ず能力発揮

- ・男女の働き方改革に
より、能力や意欲に応
じた活躍の機会充実
- ・70歳まで働ける社会
(新生産年齢人口)
- ・未来の技術や産業に
適応したプレイヤーの
育成
- ・格差の再生産の回避

④地域の未来

個性を活かした地域
戦略、集約・活性化

- ・新しい発想で資源を
利活用し、働く場所を
つくる(農業、観光等)
- ・「**集約・活性化**」による
コンパクトな地域・地方
中枢都市圏域の形成
- ・東京への若者の人口
流出を抑制
- ・東日本大震災の復興
を地域のモデルに

⑤信頼・規範

基盤的な制度、文化、
公共心など社会の土
台を大切にする

- ・日本の国土に育まれ
た伝統、文化、美意識、
価値観の継承・発信
- ・国際貢献やルールづ
くりへ参加、世界に発
信し続ける
- ・社会保障制度や財政
の持続可能性の確保